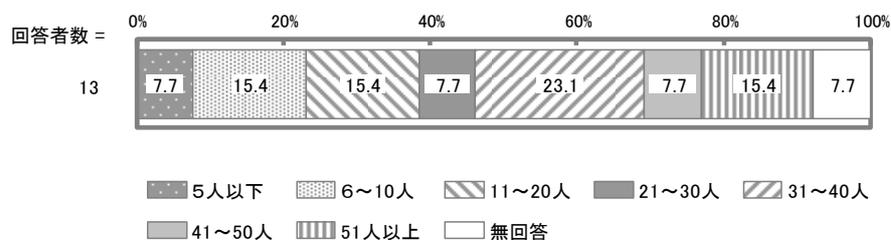


● (2) 関係団体アンケート調査の結果

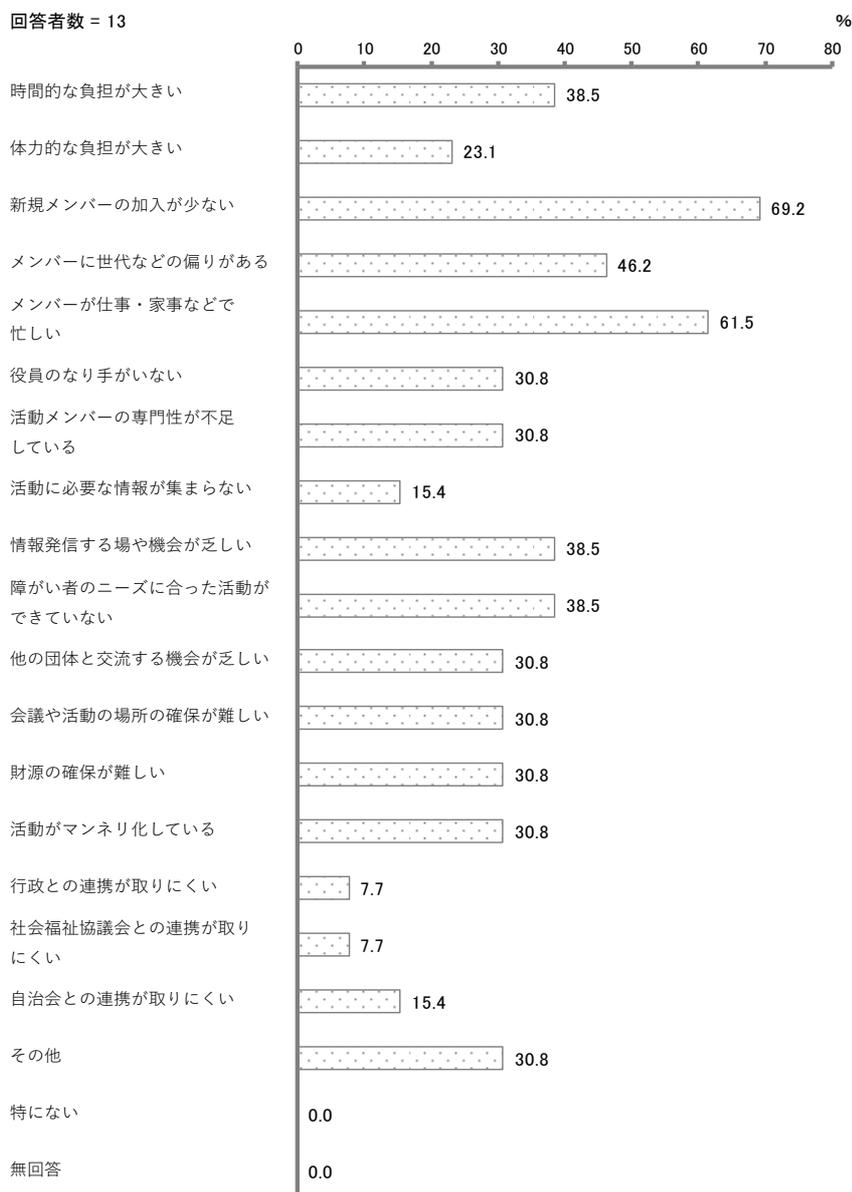
① 当事者団体・ボランティア団体

問1 貴団体はどんな活動をしていますか。(回答略)

問2 貴団体の構成員数を教えてください。

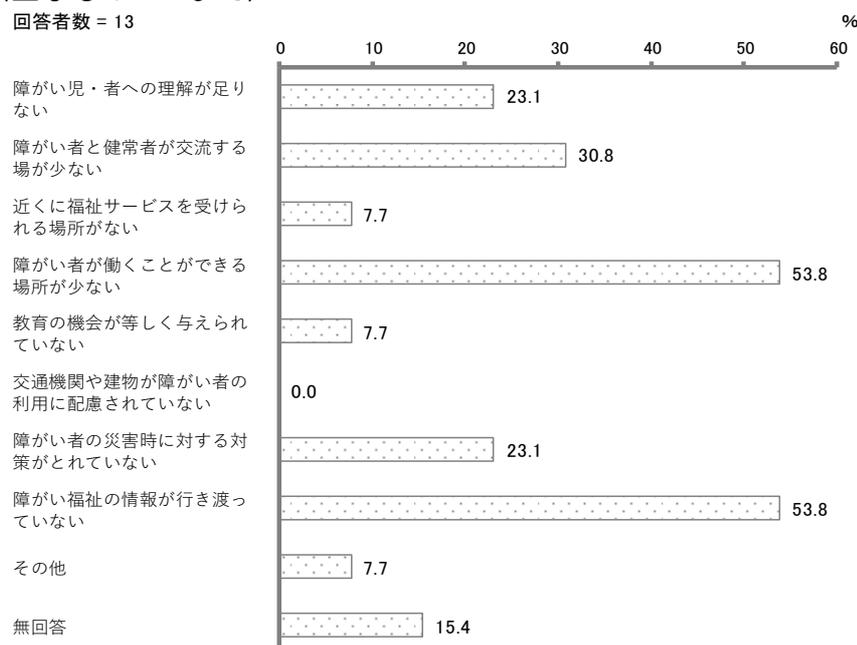


問3 貴団体が活動上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)



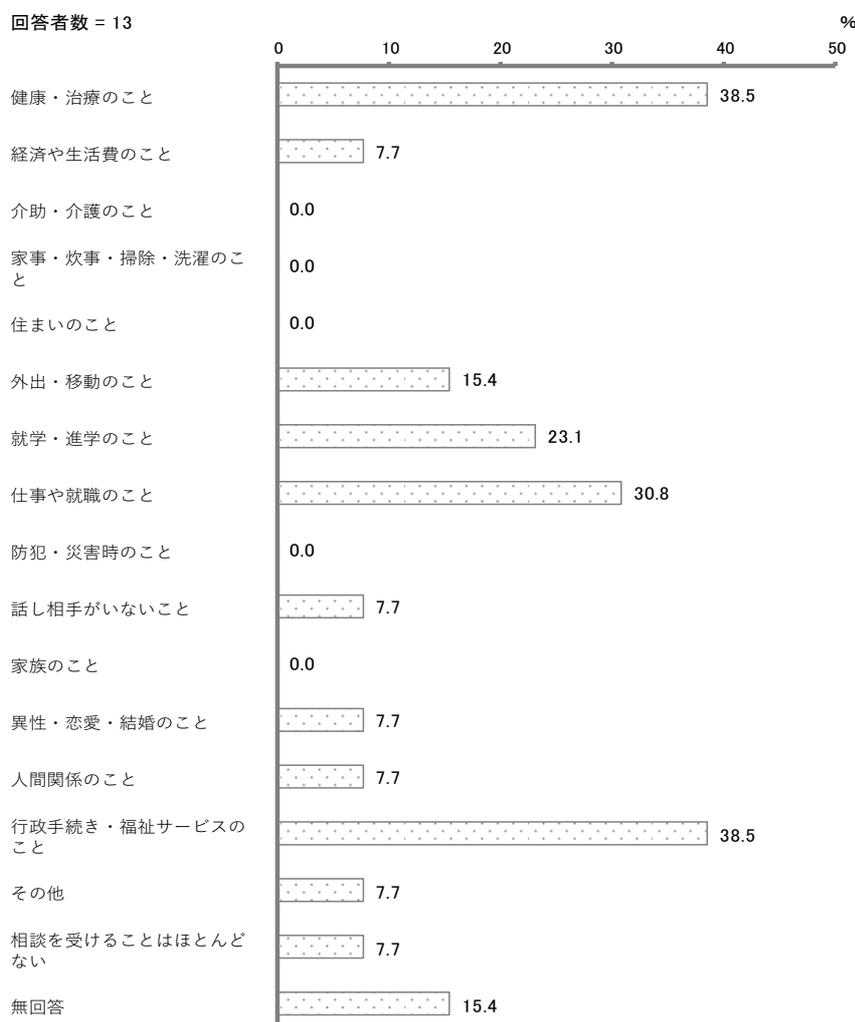
問4 ふだんの活動を通じて感じておられる地域の課題にはどのようなことがありますか。（主なもの3つまで）

回答者数 = 13



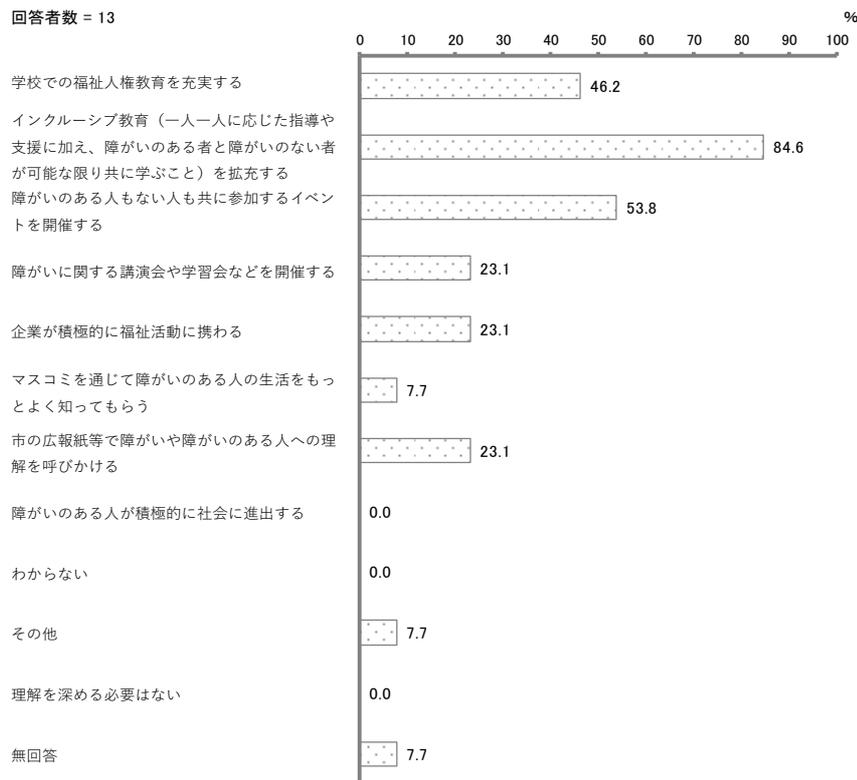
問5 貴団体が障がいのある人本人や家族から受ける相談はどのようなものがありますか。（主なもの3つまで）

回答者数 = 13



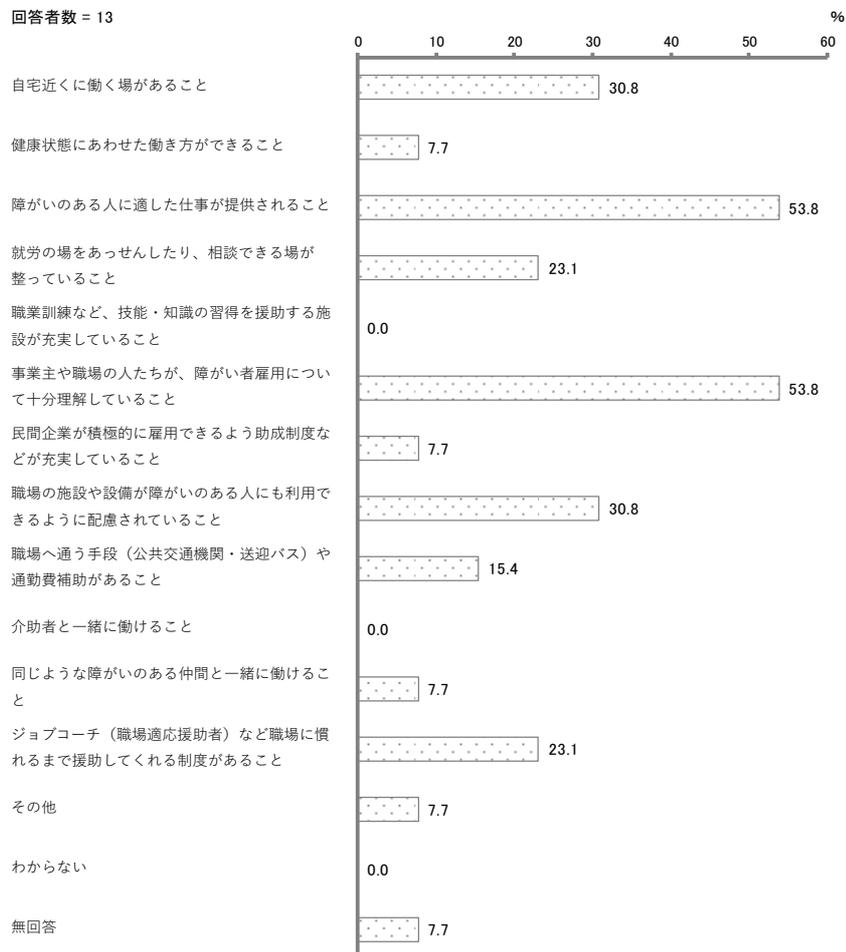
問6 障がいのある人への市民の理解を深めるためには、何が必要だと考えますか。
(主なもの3つまで)

回答者数 = 13



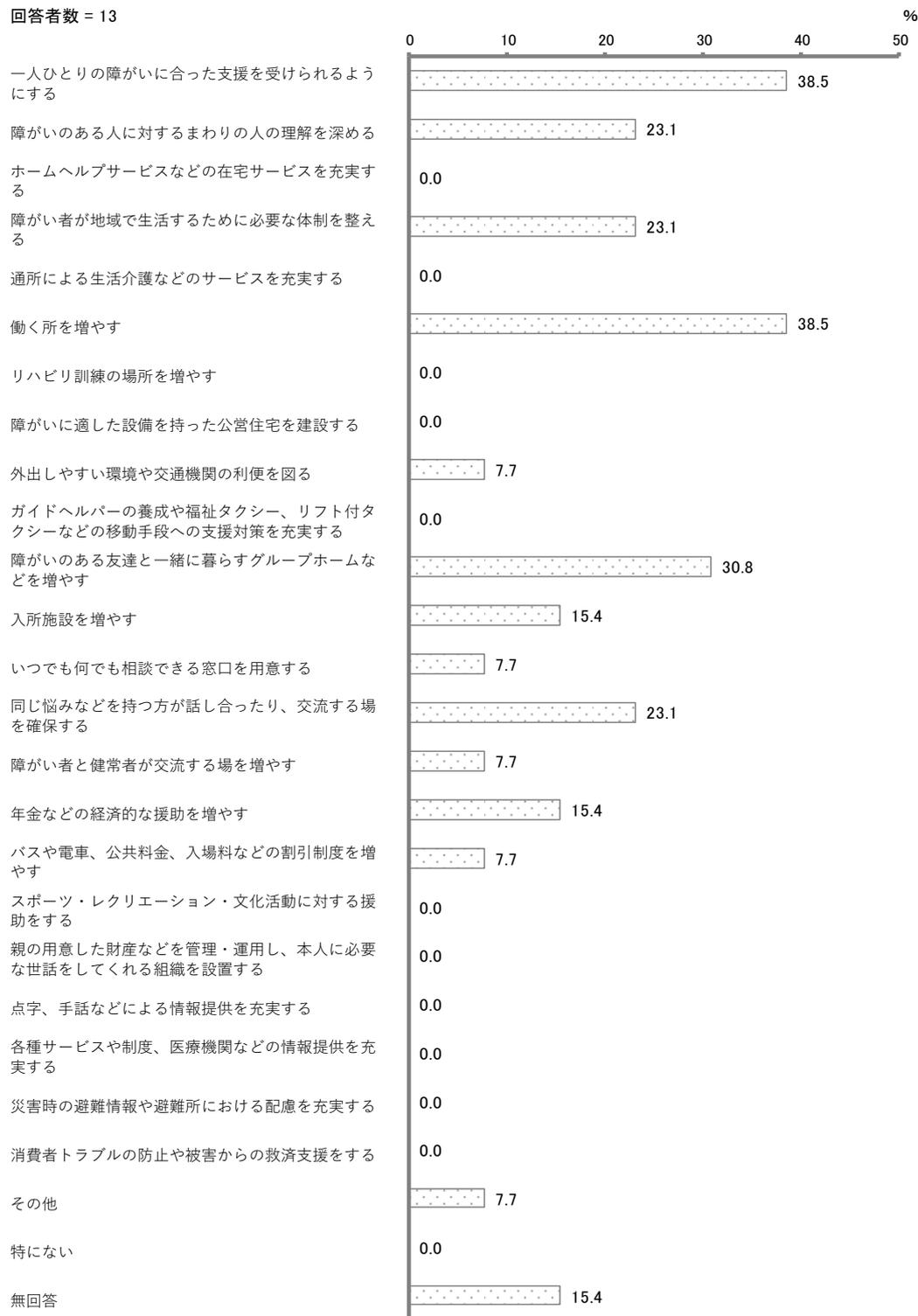
問7 障がいのある人が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(主なもの3つまで)

回答者数 = 13



問8 これからの瑞浪市の障がい福祉では何が必要だと思いますか。必要だと思う内容に○をつけてください。（主なもの3つまで）

回答者数 = 13



◆自由記載【原文のまま掲載】

①保健・医療について

- ・バスの本数が少ないのでタクシー代がかかる(タクシー券が少ない)。
- ・障害のある人が医療にかかった場合、障害に応じて(特に車イス使用者)診療待合時間短縮を考慮するよう医療機関に指導してほしい。又、県病院での車イス再使用手続きの検診の待ち時間が長過ぎと聞く。要改善。
- ・市に対して求める。病院、保健所など、手話通訳者を設置してほしい。
- ・医療補助を高校生まで引き延ばしてもらいたい。
- ・専門的な治療やリハビリは、市外や県外にある病院に通い、風邪などの一般的な治療に関しては近くの個人病院に通っています。今のところそれで対応できていますが、県外までとなるとやはり負担は大きいです。在宅リハビリを土岐市にある病院から来ていただいて受けることもできますが、瑞浪市内すべての地域が対象にはなっていないようです。また、自閉症児専門のS先生が〇〇病院にみえますが、診察を希望する子どもさんが多いため、なかなか受診できず困っているという話も聞きます。新たに専門病院を…というのはかなり難しいと思いますが、現在ある病院に専門知識のあるお医者さんや OT、PT、ST 他スタッフの方々が増えていただけると、安心して地域で暮らせると思います。
- ・市で、大きな病院は、東濃厚生病院しかないが、医師不足のために、小児科の入院ができなかったりしていると聞いています。イコール、難しい障がいを持つ人たちは、もっと病院にかかりにくくなっている気がします。お医者さんの確保、または訪問診療を行ってくださる病院があると助かると思います。
- ・自閉症の子供はなかなか理解されず、病院へ行った時におとなしく待つことや、暴れてしまうこともあるので、病院にそれを理解していただけないと、受診も難しくなります。病院によっては、拒否されることもありました。
- ・心の苦しさは薬で治らなくて、人との関係で治していくことを、当然のように言い合える地域になってほしいです。そのスタートはまず、保健・医療に関わる人たちが、その本質を見る目を持ち、人の回復する(自ら)力を信じる人であってほしい。
- ・重度の障害がある場合は、愛知県春日井市の〇〇しかありません。この〇〇も縮小の方向であるとのことです。将来に不安があります。

②生活環境・住まいについて

- ・障がいの人が気軽に行ける団欒場所があると良い。そこで地域の人達とも交流し、障がい者に対する理解を深めてもらう。
- ・銀行などで視覚障がいのため書類記入できないのに書いてほしいと言われる。
- ・身障者の生活場所、就労場所を一体とし、各地に就労施設の増設を考えていただきたい。
- ・市内放送(タブレットみたいなもの)。
- ・字が小さすぎて見にくいので、スイッチを切る、置いたまま使えない。また、ランプも小さいので気づきにくい。
- ・字とランプを大きくしてほしい。
- ・瑞浪市では、どの市、他市よりも高くない。金がないかな。聴覚生活の人が頑張って生きています。でも恥ずかしいとは思っているか。
- ・現状のままでは、親がみられるうちは通所施設やヘルパーを利用しながら自宅で暮らし、どうしてもみられなくなったら選択する余地もなく入所。いきなり環境が変わることで、本人のストレスも大きくなるだろう、と想像しています。自ら選んだ住まいで安心して暮らすためには、圧倒的にグループホームや入所施設が足りません。新たな施設や選択肢を増やすには、例えば障がい者施設と高齢者施設の垣根をなくす等、新たな取り組みも必要ではないかと思えます。そういった新たな取り組みに向けて行政が率先して動いていただけるとありがたいです。
- ・バリアフリーを目指してみえますと思いますが、駅ひとつとっても、遠い所にエレベーターが設置してあったり(どの駅もそんなふう感じました)、道路も、車いすを押してみると、やはり段差が気になって、動かしにくい所が多く見られます。外出しやすい街づくりを目指していただけると嬉しいです。
- ・地域で障がいの方が暮らすには、周りの方々の理解や協力、支援がなければできません。それが今、地域の方にあるのかは疑問です。
- ・障害者がアパートに一人で住むことはかなりハードルが高いと思えます。さりとてグループホームがどこにあるのか、というのが現実です。

③相談・情報提供について

- ・視覚障がい者は多くいるのに、音訳CDの利用者は5人だけです。他の人達はどうしておられるのでしょうか。今年、社協でCDのダビング機を購入していただき、9月よりCD録音をしています。一度に10枚のCDがダビングできます。現在利用者さんはプレクストークで聞いてみえます。市の方から障がい者の方にもっと情報提供をしていただきたいです。
- ・障がい者のみのサロンがあると、そこで障がい者同士で相談や情報の交換が出来る、また行きやすいと思

う。

- ・ 障害者の親が高齢者になり、今後の障害者の生活について、親の貯えでどの施設なら過ごすことができるのか、施設紹介等具体的な試案を作成して、障害者親族の心の環境を良好にしてあげてほしい。
- ・ 身体障害者手帳を渡すときには、岐阜県身体障害者福祉協会について説明していただき、協会へ紹介する同意書を戴きますよう、ご尽力をお願いしたい。
- ・ 現時点では、学校など相談できる場となっているが、卒業後はどうなるのか、不安です。
- ・ 現在私の家庭内では障がい児一人だけですが、今後親（祖父母）や自分自身（親）が介護が必要になる可能性があります。そういった場合に、まとめて相談できる窓口や、事業所があると、負担が減ると思います。
- ・ 福祉サービスについて、障がい者手帳を取得した時には説明していただいています、それ以降は自ら調べて問い合わせなければならない状態です。年月が経つにつれ状況は変わるので、本当に必要としている方が受け入れていない可能性もあるのではないかと思います。
- ・ 話に行くのが不安だったり、なかなか市役所まで足を運べなかつたりする方がいるかと思われま。昨年学校でやっていただいた、福祉サービスの説明会が定期的にあると、ありがたいです。
- ・ 国の制度もいろいろと変わっていく中で、それぞれの障がいの方に合った制度やサービスなどの情報を知るには難しいです。
- ・ 障がいがある人を助けるのは、専門のところや専門の人でないとできないという決めつけがなくなっていくように、誰でもできる（そういう面のほうが多いし、重要）ということを広めていけるといいと思う。
- ・ 福祉課のみ。

④雇用・就労について

- ・ 障がい者を雇用する会社及び障がい者が通所する作業所が市内に増えると良い。
- ・ 障害者が職業についたとして、家族は通勤方法に支障が出ると思う。障害者用の就労施設の増設を図ると共に交通手段も配慮してほしい。
- ・ 働く場所が瑞浪市内でどのくらいあるのか。受け入れ定員なども不安なところもあります。働ける場所が確保されているのか。
- ・ 市内に就労先が少ないように感じます。商工会議所の方への働きかけ等していただいているとは思いますが、他市では障がい者施設に仕事を集中していると聞きます。また、市有地を障がい者施設に無償で提供したとの話も聞きました。それも、施設からお願いしたのではなく、市のほうから募集をかけ、手を挙げたいいくつかの施設の中から選んだとのこと。こういった一歩踏み込んだ支援をしていただきたいです。
- ・ ②の中で述べたあらたな取り組み（障がい者施設と高齢者施設が垣根をなくす等）は、働ける障がい者がその中で役割を持って働くことで、雇用や生きがいにもつながるのではないかと思います。
- ・ 最近、「農福連携」という取り組みについて新聞やテレビで見える機会がありました。瑞浪は農業をされている方が多いので、この取り組みに向いているのではないかと思います。うまく連携していくには、コーディネートする立場の方も必要とのことだったので、行政がうまくバックアップしていただけないかと思いました。
- ・ まだ少ないかと思えますし、どれくらいの求人があるのか全くわからないのが現状です。また、作業所等での職員さんの確保も大変だと聞いているので、障がいを持って働く大変さを感じます。学校で、いろんな作業をしているのに、ちょっともったいないと思います。
- ・ 瑞浪市に障がいの方が働く場所は少ないと感じます。企業だけでなく、公共の場での仕事を障がいの方と健常の方と共に働ける場所を提供していただきたいです。健常の方が関わることで、障がい者への理解も深まると思えます。
- ・ 生きづらさを抱えたまま、ただ働けばいいとは思わない。生きづらさを克服し、支え合っていける場が必要と思うし、あれば十分働ける人は多い。
- ・ 知的障害の就労はやはりハードルが高いので、福祉就労として、働ける場を増やしてゆけると良いと思います。

⑤教育・保育について

- ・ 教育 全員ろうあ者の徳のため高めるようお願いしたい。市の住んでいるろうあ者を知っているか。
- ・ 一人一人の個性を活かせる教育を望みます。
- ・ 共生社会の実現には、やはり障がい者に対する理解が必要です。兄弟姉妹や近所の子どもたちと接する中で、関わり始めた年齢が低ければ低いほど、障がい者に対するハードルも低いことを実感しています。居住地交流などを通じて、私たちも知ってもらう努力をしなければなりません。居住地区でも福祉教育を行ってほしいです。高齢者の方や車いすの方などに対しては行われているようですが、知的障がい者についてはほとんどされていないように思います。また、学校内だけではなく、ボランティア活動に参加したり、交流の一環として特別支援学校に来ていただいたりするのも、理解を深める一つの方法だと思います。
- ・ 保育の障がい児に対する受け入れは、以前に比べてとても充実してきたと思います。感謝です。教育は、先生方の専門性も問われてくるので、専門知識を持った先生の確保も大切かと思えます。
- ・ インクルーシブ教育、同じ学校の中に障がいのある方もない方もいる。子供たちの身近に障がいの方がいて、共に助け合って学ぶことができれば、もっと障がい者の理解もできると思います。小さな頃から障がい者とふれあうこと、健常者も障がい者も誰もが同じように一人一人その人たちに合った教育を受けることができる学校がほしいです。そして先生方にも障がいの方を学んでほしいです。

- ・学校や保育の現場で、先生たちが、マイノリティになる人たちをどのように見てどのように対応しているかがカギになると思います。尊重し、大事にしてくださいとところにその人の居場所はできるので、あまりにも分けること、特別な場をつくるのがベストではないと思う。
- ・現在の教育の中で、担任が1～3年で代わるということが当たり前になっていますが、知的に障害がある子どもは担任の先生に慣れるのに半年かかります。ようやくコミュニケーションが取れた頃に担任の先生が代わるのは、子どもたちがかわいそうです。やはり、1年～6年間は持ち上がりで担任の先生が変わらないことを望みます。

⑥障がいへの理解と交流について

- ・ヘルプマークや白杖を上にあげるポーズでヘルプを求める動作の理解が少ない。視覚障がい者には様々な場所で声かけしてもらい、わかりやすくことばで伝えてほしい。
- ・障がいへの理解を深める内容の授業を小学校から子供達に教えて行くと良い。障がい者と小・中学生との交流を通し理解を深め、困っている所はどんなことか見て感じさせることにより、理解を深めることが出来ると思う。
- ・様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互の理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことを「心のバリアフリー」。そのためには、一人一人が具体的な行動を継続することが必要と思う。「心のバリアフリー」を浸透させるための手法を考えて戴きたい。
- ・情報保障として、手話通訳をつけてほしい。
- ・講義を一般市民にもやってほしい。
- ・市民の平和として、活動見て聞き、参加するように。
- ・個性に応じた交流の場(絵が得意であれば絵に関するような交流など)。
- ・交流できる場がかなり少ないと思います。交流がないから、理解してもらうのも難しいかと…。例えば、防災訓練の時に、車いすの方に参加してもらって、どんな手助けが必要かやってみたり、もっと身近な所で交流できたらいいかと思います。
- ・交流する機会に参加するのを悩むことがあります。母一人で連れて行くのが大変だとか、知らない人ばかりに行くのは抵抗もあるとか理由はいろいろです。交流するにも橋渡しになってくれる方も必要になると思います。
- ・障がいを持っている方が、それを忘れさせてもらえるような空間や、人間関係のある場があれば、本当の意味で相互に生きやすい町になると思います。
- ・これは親の思いは多くありますが、どうしても理解が進むには時間がかかると思います。

⑦防犯・防災（災害時の対応）について

- ・電話の「サギ」対応について心配。
- ・各町内の委員会において、避難行動支援に関する取り組み方を策定し、町内に行動内容を明確にし周知させる。
- ・要支援者名簿を作成し、資料の使用法の徹底を図ってほしい。
- ・119、110に連絡方法…各自メール、FAXを取り付けてほしい。無料中型スマホを配慮してはどうか。(その代わりタブレットより)
- ・自宅にいる時に地震等が起こり、親が身動きできない状態で障がいある子どもだけが残った場合どうなるんだろう、という不安は常にあります。「避難行動要支援者名簿」に登録はしてあるので、どなたか来ていただけるのかもしれないとは思いますが、その方と日頃交流がないので、実際その場面になった場合かなり戸惑われるのではないかと思います。初めに提出した時から状況が変わっていいこともあります。今どなたかがそれを持ってきてどういう体制になっているかもわからないこと、それからご迷惑かもしれないと感じてしまうこともあり、問い合わせできないままです。
- ・避難所に関しては、慣れない場所で大勢の人の中で過ごすのは難しいと思っています。どうしても利用しなければならなかったら福祉避難所にと考えていますが、ハートピア1か所だけのようなので、大勢の人が詰めかけてしまうのではないかと不安もあります。
- ・特に寝たきりの生活をしている我が家では、災害時も何とか自宅にいて過ごせる方法をついつい考えてしまいます。外に出ると迷惑もかけてしまうし、個人的に必要な物もいっぱいあるし…。シミュレーションがあると、本当に起こった時、どう動くか、考えられるようになるかもしれません。
- ・災害時にどこへ行ったら安心して過ごせるのか、全くわかりません。自閉症の子供にとって、たくさんの人、いつもと違う場所、すべてがとても不安でパニックを起こしてしまいます。そんな中で、他の方々も災害で大変な時に、障がいを理解して下さる方がどのくらいみえるでしょうか？特別扱いをしてほしいのではなく、どれくらい障がいの特性を理解した配慮が災害時にできるのか、その準備はあるのか、考えていただきたいです。
- ・車の中に避難するしかないと思います。

⑧その他

- ・介護保険のサービスになると利用料金が発生することが負担になる。
- ・平成30年度を目途に障害のある人・高齢者等へのサポートを行いたい人々が統一マークを着用する予定

との事、出来るだけ早く瑞浪市が導入してほしい。又、障害のある人に関する施策の検討及びバリアフリーの評価に当たっては、障害のある人が参画し、障害のある人による視点を施策に反映させてほしい。例えば、瑞浪市各支所、総合文化センター等公共施設に身障者を案内し、障害者が感ずる視点を反映し、対応を検討してほしい。

- ・タクシー券少ない。1年分 50 枚求める。
- ・聴覚障害者に対するサービスはありませんか。何かありますか。
- ・環境が整ったとしても、結局は全て人の力が必要となります。福祉業界は人材不足だとよく聞きます。設備面だけではなく、どうすれば良い人材が育つかも共に考え指導していただきたいです。
- ・知的障がい、精神障がい、重度障がい、いろんな障がいを持った方が、それぞれ必要としているニーズが多すぎて、個々に合ったサービスを求めるのも難しいと思います。まずは「地域社会の理解」があると、助け合える部分が出てくるように思います。これからもよろしくお願いします。
- ・瑞浪市の地域の方、そして市役所の方々に障がいの方を理解していただけるよう、私たちが日々がんばっています。障がいの方の住みやすい町は、健常者にも必ずすばらしい町です。そんな魅力的な瑞浪市にしていくことを目標に活動しています。私たちが、親としてやるべきこと、そして、地域の方々に理解していただけるように、市役所の方々と共に考え、ご協力、ご支援をお願いいたします。
- ・当事者の人たちこそ（立ち直ってきた人たち）、人を本当に助けられる人になってくれることが広まってほしいと思います。（そのご本人にも周りにも）
- ・知的障害の子はすぐ「だまされたり」「いじめられたり」します。これは時代が変わっても続くと思います。知的障害の子は、社会性を身につけ生き残るしか、方法はないと思います。皆から愛され、なごまされる子たちになると良いと思います。地域の守り神（七福神の布袋様のような…）のような存在になれば良いと思います。